

正法寺

正法寺には多くの仏像が安置されており、その中で最も珍しいのは、慈悲の菩薩である三面の観音像です。またこの寺院は、岩で動物を表現した枯山水庭園や、西山連峰を描いた屏風絵でも有名です。正法寺は大原野神社の近くにある真言宗東寺派のお寺です。

宝生苑と宝生殿

宝生苑は枯山水庭園と池泉回遊式庭園を組み合わせた庭園です。景色が外壁の向こうに広がり、京都の街並みと東山連峰を「借景」として取り込んでいます。丁寧に仕上げられた白砂と池の周囲には鳥や動物の形に似た石が置かれ、別名「鳥獣の石庭」とも呼ばれています。合計 16 の石は、獅子、カエル、ペンギンなど、世界中の 16 種類の動物を表現しています。宝生殿にある絵図を参照することで、それらの全種を識別することができます。春のピンク色に咲き誇るしだれ桜、夏の緑豊かな苔や睡蓮、秋の色鮮やかな紅葉、そして冬の白い雪など、四季折々に見た目が変わる庭園では静かに思いを巡らすことができます。

庭園に面した宝生殿には六臂三眼の愛染明王像が安置されており、縁結びや夫婦円満のご利益があるとされています。七福神の一つである大黒天の疾走する姿を表現した比較的珍しい彫像は、人々に幸福をもたらすために急いでいるかのようにも見えます。

本堂

須弥壇上にある最大の仏像は、ご本尊の三面千手観音菩薩像です。この千手観音像の 3 つの顔は、現在・過去・未来を見守る力を表しています。金鍍金されたこの木像は高さ 1.8メートルで、鎌倉時代（1185年～1333年）初期のもので、国から重要文化財に指定されています。

右側には聖観音と呼ばれる人間の姿をした観音菩薩像があります。それは正法寺で最も古い仏像です。真言宗の開祖 空海（弘法大師、774年～835年）は42歳という伝統的に男性の人生において不幸と考えられている年齢時に、厄災から身を守ることを願ってこの仏像を彫ったと言われています。さらに右には、室町時代（1336年～1573年）の大日如来像があります。三面千手観音菩薩像の左側には、同じく室町時代に彫られた 2 体の阿弥陀如来像が安置されています。お参り場所近くにあるボタンを押すと日本語での説明が聞けるほか、お堂内には英語のリーフレットも準備されています。

襖絵

大原野生まれの画家 西井佐代子氏（1947年～2000年）は、寺院の書院のために西山の風景を描いた 41 面の襖絵を依頼されました。末期の病と闘いながらなんとか 17 面を仕上げましたが、

残りは西井氏のスケッチに基づいて完成となりました。「西山賛歌」の襖絵は西井氏の故郷への愛が表れており、四季折々の草花や春の緑に覆われた山々が描かれています。

不動堂と境内

2体の仁王像が並んでいる階段の上には不動堂があります。春日不動明王を祀っており、安全と繁栄や病氣平癒、厄除けのご利益があるとされています。お堂からは朱色の遍照塔など周囲の景色を眺めることができます。不動堂の裏手には参拝者が商売繁盛や繁栄を祈願する春日稻荷神社があります。神社の先にある赤い太鼓橋を渡ると小さな滝があります。

山門と本堂の間にはもう一つの枯山水庭園があります。山門を抜けた先の山腹には、100本以上の梅が植えられた梅園があります。2月から3月にかけて遠方にある東山連峰を背景に白やピンクの花が咲き、メジロなどの鳥を引き寄せます。

略歴

中国の僧 智威大徳は、8世紀に仏教を広めるために来日しました。754年に大原野に春日禅房という庵を建て修行を行いました。800年頃、天台宗の開祖 最澄（伝教大師、767年～822年）が長岡京を守護するために大寺院を建立し、その庵を塔頭の一つとしました。京都の大部分同様、応仁の乱（1467年～1477年）で焼失しましたが、1615年に修復され正法寺と改名されました。その後、5代徳川将軍、徳川綱吉の母である桂昌院（1627年～1705年）の多大な寄付により増築されました。